

第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会
第2回「まちの魅力創造プロジェクト部会」 議事概要

日 時：平成22年7月2日（金）13:00～15:00

場 所：八戸市公会堂文化ホール2階 第2会議室

出席者：委員5名（類家伸一部会長、町田直子副部会長、類家徳昌委員、泉彩菜委員、中村萬之助委員）

事務局：政策推進課（清水主査、葛西主査）

庁内検討ワーキングチーム関係14課（まちづくり文化推進室、八戸ポータルミュージアム開設準備室、商工政策課、スポーツ健康課、環境政策課、道路建設課、道路維持課、建築住宅課、都市政策課、公園緑地課、運輸管理課、社会教育課、是川縄文館開館準備室、博物館）

要 旨：第5次八戸市総合計画後期推進計画の戦略プロジェクト1次案について、素案からの変更点等を確認しながら、その内容について検討した。

検討の結果、1次案の方向性は概ね委員会の了解を得たが、一部、追加を検討すべき新たな施策や事業等について意見が出された。

内 容：

1 開会

2 部会長あいさつ

- ・ワークショップ形式で行う部会のため、委員の皆様には積極的な発言をお願いしたい。
- ・様々質問等あると思うが、関係課の皆さんにはご協力いただきたい。

3 審議案件

①戦略プロジェクトの1次案について（部会資料5）

- ・事務局から資料を説明後、プロジェクト毎に、戦略プロジェクトの1次案を検討した。

<2-1 中心市街地再生プロジェクト>

- ・中心市街地の活性化にはアクセスの改善が必要と思われるが、三車線一方通行の国道340号について一本を駐車帯に変更あるいは対面通行に戻すことはできないか？一方通行化した当時と通行量が異なる。
→中心市街地活性化協議会の交通アクセス検討部会では、駐車場・バス・タクシー・運転代行の利用促進について検討しているが、結論はまだ出ていない。一方通行の変更については議論していないので、市はオブザーバーの立場ではあるが、検討してもらえよう進めたい。
- ・中心街へのアクセス改善については、戦略プロジェクトに追加するのであれば施策1

になるだろう。

- ・別の所でも同様の話をつい先日した。中心街に駐車帯があれば便利でよい。
- ・中心街へのアクセス改善について施策1に入れてほしいということ、部会の意見としてまとめたい。
- ・大学サテライトの件は、うまくいきそうか？
→シンクタンクは2つめのテーマに入っている。報告書が完成すれば講演も可能となるだろう。
- ・老朽化した大型の建物を除却したいが費用に何億円も要する。再開発であれば除却費用も補助されるが、単に取り壊すだけであれば補助されないとのこと。優良建築物等整備事業という再開発のミニ版も除却費用が補助されるとのこと。建物所有者が除却に向けて動きやすい支援策が国、市などに欲しい。
→施策2の中心市街地共同住宅等供給事業が優良建築物等整備事業を活用している。
- ・支援があると分かれば民間に動きが出る可能性がある。担当課に個別に相談したい。
- ・市民に対するはっちの知名度が低い。「どうせうまくいかない」というような声も聞こえる。完成時期や事業内容も知られていない。宣伝不足かもしれない。
- ・はっちは興味がある人には認知度が高い。首都圏など中央では注目されている。これまでと異なる公共施設であるため説明が分かりにくいのかかもしれない。実際、使ってみてから理解してもらえる施設なのでは？

< 2-2 文化・スポーツプロジェクト >

- ・南郷文化ホールの事業名が変更した理由は？
→名画座以外にも広く事業を行う予定であるため。
- ・地元住民の利用だけでは件数が少ないので、学校などにも利用を呼びかけている。今までは地元向けのイベントが多かったが、今後は全市的なものも進めていきたい。
- ・交通も含めて考えなければならないのでは？
- ・高速道路の無料化は影響が大きいと思う。公会堂でも宣伝してもらっているが、もっとPRしていきたい。
- ・名画座のほかに何か事業はあるのか？
→指定管理者の業務基準書にジャズ関連事業の実施を記載している。また、指定管理者の自主事業としてジャズパーティーを開催する予定。
- ・市民練習場について検討状況は？
→市民の文化活動を活発化するために必要と認識している。多文化都市八戸推進懇談会において場所、規模、ニーズ等を検討中
- ・サッカーのワールドカップのようにスポーツには国を束ねるエネルギーがある。市民こぞってスポーツチームを支えるようになってほしいと思うのだが、市民の中にユニフォームを作るといったような動きはないのか？
→チームから市民向けに情報提供はあっても、市民の側の盛り上がりはまだ見られない。
- ・屋内スケート場については、コンベンションにも使える多目的施設として整備してほしい。青森市で3,800人の薬剤師会の会議があったが、八戸市では開催できるところ

がない。大規模のコンベンションを開催できれば宿泊、土産物販売などの経済効果は大きい。新聞等でも多目的施設として取り上げられるようにしてほしい。

- ・カーリングのチーム青森のように、市ならレスリングでシンボリックな存在がほしい。伊調氏を活用してはどうか。アイスホッケーならピーウィーもある。万遍なく支援するのではなく、一点突破で力を注いでほしい。
- ・バトントワリングも入れてほしい。
- ・メジャーな人を活用してスポーツの振興を図ってほしいということで意見をまとめた。

< 2-3 環境創造プロジェクト >

- ・環境教育について、エコレンジャーのリニューアルの詳細は？
→一昨年度まで一月1テーマだったが、昨年度は年に2つのテーマとなって少なすぎた。今年度は二、三月に1テーマで進める予定。
- ・出前講座は？
→先月は湊小の親子環境学習会に参加した。全員参加が無理でもできるだけ対応したい。ほかの自治体からも派遣依頼はあるが、要綱を定め市内と周辺自治体への派遣に限定している。
- ・LED防犯灯は全部切り替える予定か？
→LEDで申請するようお願いしている。今年度の申請は半々。
- ・LEDのメリット・デメリットは？
→灯具が高いのがデメリット。それを踏まえ補助額を上げている。電気代は最初の月は町内会負担だが、それ以降は市の負担。
- ・促進策をもっと強化してほしい。
- ・ソーラーパネルの設置率は？
→率では把握していないが、昨年度の市への申請は207件。今年度はこれまでに52件。今年度は150件ほどになる見込み。
- ・ソーラーパネルについては、地元業者ではないが、悪質な勧誘に対するクレームが多いようだ。自然エネルギーは、国も10倍以上に拡大する方針なので、これから伸びる分野。産業の育成が必要と思われる。
- ・新うみねこプランとは？
→新マニフェストで追加する事業。新設する校舎、公民館等には可能な限り太陽光発電システム等を設置するという内容。白山台公民館には来年、柏崎小には完成時に設置する予定
- ・年次計画は？
→特に定めていない。グリーンニューディール基金があるので、来年度までの計画はある。
- ・エネルギーシステム転換支援事業とは？
→二酸化炭素の排出を抑制するために、事業者が天然ガスや太陽光等を利用する機械装置の整備等に対し1/6以内を上限200万円で補助するもの
- ・事業系ごみ減量も進んでいるか？

→順調に進み、一人あたり 1,000 グラム以内の目標が達成できた。リバウンドのないよう進めたい。

- ・公共交通に関し、八戸線の八戸・鮫間を地下鉄のように活用できないか。まずは、八戸・本八戸間を複線化できないか。20 分間隔で運行が可能となれば、乗客も待つことが苦にならない。これまでに議論したことはないのか？

→複線化の議論について聞いたことはない。だが、既にバスが 10 分間隔で運行しているので、利便性は上。バスも採算性が悪いが、八戸線も同じ公共交通なので同様と思われる。また、複線化を要望した場合、JR から市に対し何らかの支援を求められる可能性がある。ダイヤについても地元ではなく東京で決定している可能性もある。

富山のようにライトレール化して成功している事例もあるが、八戸市で同様にできるかは不明。前期推進計画策定時の委員からの付帯意見で車社会からの脱却が謳われており、環境先進国では中心街に車を進入させない方向に進んでいる。自動車の利便性を求めるのか公共交通の利便性を求めるのか、総合計画としての議論の整理が必要と思われる。

- ・八戸・本八戸間をシャトル運行にすると JR から市に負担金を求められるということか？

→議論をしたことがないので不明

- ・一度きちんとお願いしてフィードバックしてもらえれば、次の手を考えられるのだが。

- ・八戸圏域公共交通計画とは？

→8 市町村の幹線的な路線バスについて、一体感のあるネットワークを構築しようとするもの。計画は現在策定中である。

- ・策定予定は？八戸線については？

→策定は秋頃の予定で、来年度から具体の事業が開始。鉄道についての具体的な議論はしていない。

- ・ほとんどがバスに関する施策だが、市民目線では JR がないと利便性が不十分。今後はそれ以外についても言及してほしいが、バス以外の公共交通機関と話し合う場はないのか？また、バスダイヤについては、他の路線も調整し等間隔にすることはできないのか？

→鉄道などバス以外との連携について、戦略プロジェクトに位置づけられ体制が整えば、鉄道を含めた計画を推進していくこととなるだろう。また、八太郎方面も市営と南部バスで等間隔にした。鮫方面や中居林方面も同様。

- ・公共交通については他の交通手段も入れた全体のビジョンが必要と思われる。自動車は変わり目に来ていて、世界ではハイブリッドを乗り越えて EV の時代。横浜、六カ所でも EV の実証研究が始まっている。後期推進計画中に公共交通は様変わりするだろうから、総合計画の中で公共交通をどう捉えるかという大きな命題を突きつけられていると思う。

- ・スマートグリッドも実証研究段階だが、家庭の電気、移動手段の変化について後追いとならないよう、10 年先を見通して市の計画の中でシミュレーションが必要ではないかと思う。

- 総合計画とは別になるかもしれないが、今年度で圏域公共交通の方向性が固まるのであれば、次につなげるために新幹線、フェリー、三沢空港等のほか二次交通を含めた大きな視野で公共交通のビジョンを考える必要があるのではないかと？
→財源があって実現性のある事業が戦略プロジェクトの事業となるものと理解している。大きなビジョンの必要性は分かるが、財源がついてどう推進するかにかかっている。それについては、総合計画的にどう解釈するのか策定委員会で議論すべきではないか。エコカー減税もあり、公共交通は逆風にある。規制緩和によりバス事業の撤退が問題になったので、国でも「地域公共交通」の活性化・再生を図る自治体を支援し始めた。グローバルな視点も分かるが、一自治体としては地域公共交通に対する施策が必要と考えている。
- 戦略プロジェクトには予算を含め実現可能な事業のみ掲載するというのであれば、今の議論は場違いだったかもしれない。横浜市でも実現しているので、市でも実現できないかと思ったのだが。
- 各論を進める中で、市として事業を考えていない、予算確保が難しいという話を出されると、議論する意味があるのか疑問に感じる。可能な事業しか載せない総合計画に意味はあるのか？この部会だけではなく全体の話として、現実には現実として見ながらも、市にとって重要な課題であれば検討すべきものとして項目を残すべきではないか。